

経営比較分析表（令和6年度決算）

佐賀県 玄海町

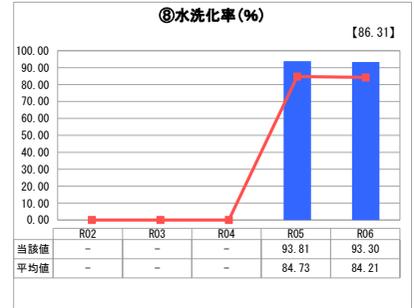
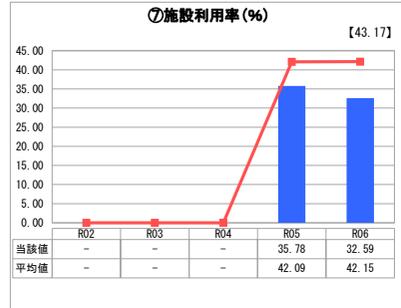
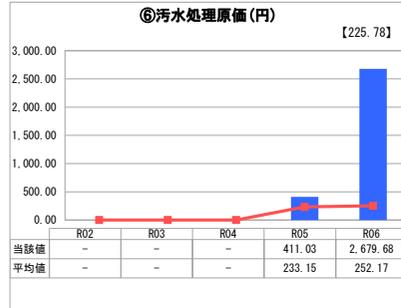
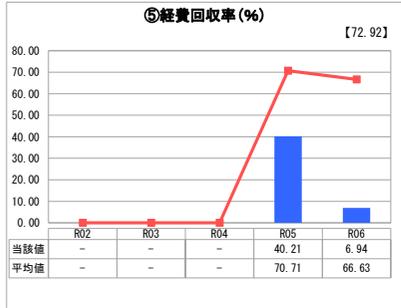
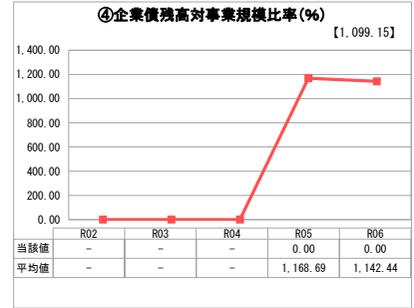
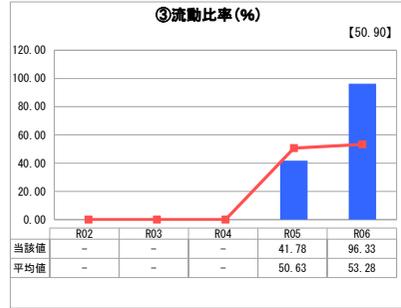
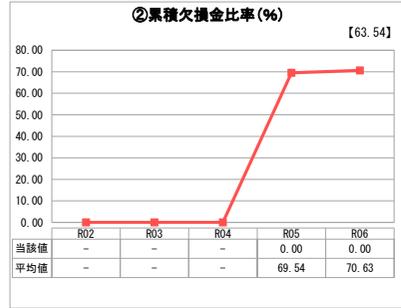
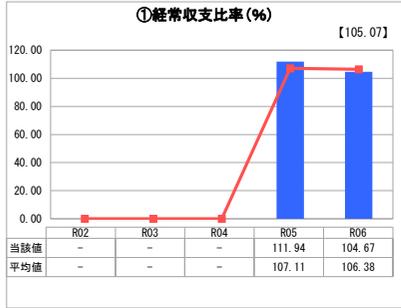
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	72.46	74.99	96.10	3,850

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
4,825	35.92	134.33
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,566	1.46	2,442.47

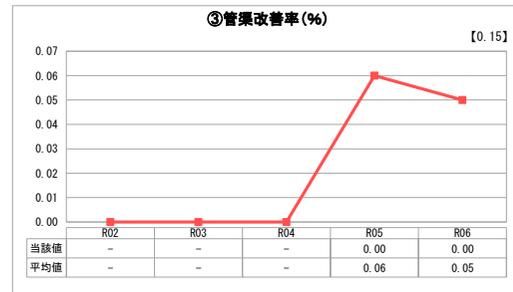
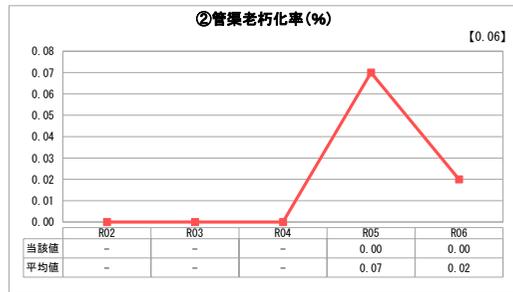
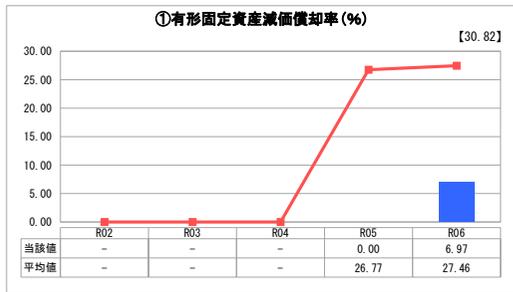
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 北部浄化センター事故の影響により、経常収益・経常費用ともに前年度から大幅に上昇しているため単純な比較は困難だが、事故対応にかかった費用は基本的に全額他会計補助金に依存していることから、前年度より余裕を持った経営状況ができなかったことが減少した一因と言える。

③・⑤・⑥については、前述した北部浄化センター事故対応のため処理場費が前年度から大幅に上昇した影響を受け、いずれも前年度より著しく上昇または下降した結果となっている。

⑦ 節水型住宅設備の普及や区域内の人口減少が利用率低下の原因と考えられる。

⑧ 類似団体の平均値以上の水準を維持している。

2. 老朽化の状況について

南部処理区は平成18年度、北部処理区は平成22年度に供用開始した。

管渠老朽化についてはまだ先のことはあるが、耐用年数を超える前にカメラ調査等による劣化度判定やストックマネジメント計画の策定等により、計画的かつ効率的に更新を進めていく準備を行う必要がある。

全体総括

北部浄化センター事故の影響により、前年度の数字や類似団体平均値と比較するとかなり歪な経営状況となってしまっている。

令和7年度現在、処理場の仮復旧は済んでおり、仮設水処理設備と併用での運用となっている。処理場の本復旧までは仮設水処理設備の運用が続く見込みのため、その維持管理費等により令和8年度ごろまでは処理場費が例年より増加することが考えられる。少しでも早く処理場を本復旧させることで、処理場費の増加を抑制し、財政状況を今よりも健全な状態へ戻さなければならない。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。